

初めて日本に来たのに、親近感を 感じました。

基金の日本語国際センターの、教師向けの研修を受けに日本に行きました。その時ベトナムはまだ暖かかったので、うっかり冬着を着ずに預け荷物に入れてしまいました。飛行機が離陸して2, 3時間経ち、薄着で飛行機に搭乗したことを後悔しました。緯度が高いところに行けば行くほど温度も下がるせいか、配布された毛布を掛けても、寒くてたまりませんでした。

そんな私の様子に客室乗務員の女性が気づいてくれたのか、私に話しかけた後、もう一枚の毛布と熱いショウガのお茶を持ってきてくれました。そのときはまだ日本に到着していませんでしたが、日本人の細やかな気遣いを実感しました。

空港へ降り立つと、どこを見ても綺麗でした。また、周りの人は早いスピードで歩いていました。『いろどり』を数年教えているので、『いろどり』のイラストを数え切れないほど何回も見ていたせいか、初めて日本に来たのに親近感を感じました。





研修の4週間

研修は埼玉県にある国際交流基金の日本語国際センターで行われました。午前は9時半から12時半、午後は1時40分から5時ぐらいまで授業を受けました。夜、部屋に戻るとレポートと発表の準備、そして宿題をやっていましたので、平日はかなり忙しかったです。週末は授業がなかったので、休んだり出かけたりして、自由に行動する時間がありました。

研修の最初の週は、日本の天気が合わなかったせいか、少し疲れていたのもで部屋でゆっくりするか、出かけるか迷っていましたが、しかし自由時間を活用するからこそ、今回の研修は有意義になると思い、部屋に引きこもらないようにしました。また、朝起きたらすぐに出発できるように、金曜日の夜には荷物や洋服などを前もって準備しておきました。

研修の初日、基金の先生に埼玉県の地図を受け取りました。その地図には、博物館などの観光スポットが載っています。私は鉄道博物館、人形博物館、盆栽博物館など、地図に載っていた博物館はほぼ全て行きました。

また、学生の場合、入場チケットは割引されるところもあり、基金の研修者のカードを提示すると、半額でチケットを購入することができました。



充電ケーブルの話

研修に日本に行ったとき、充電ケーブルに関するちょっとしたトラブルがありました。私のパソコンの充電ケーブルのプラグは丸い形ですが、日本のコンセントの差し込み口は細い四角の形しかありません。このままだとパソコンが使えないと他の人に相談したら、変換アダプタを購入すれば解決できると教えてもらいました。

ホームセンターに行って、店員に「変換アダプタを探しています」と伝えたところ、専門のスタッフを呼んでくれて、丁寧に対応してくれました。

そしてそのお店のスタッフは私にどこから来たかを聞き、ベトナムのコンセントの規格に合う変換アダプタを探してくれただけでなく、きちんと充電できるかどうかも確認してくれました。

道を聞く、店で買いたいものを探すなど、基礎的な会話さえできれば、日本での生活はより過ごしやすくなることを実感しました。将来日本に行く学生には、生活に必要な会話ができるようになってほしいと思います。



あなたへのヒント

訪日研修に興味を持つ人から、「研修に参加する場合、どのような支給がありますか」という質問をよくもらいます。Thuyさんは日本での研修に参加したことがありますので、少し詳しく教えていただけませんか。

飛行機チケット、宿泊、研修期間の食事代を支給してもらいました。日本語国際センターには宿舎があり、部屋は一人部屋です。研修者専用のカードがあって、私はこのカードでセンターの食堂で食券やお菓子を購入しました。支給される食費はかなり余裕があり、帰る日まで使い切っていませんでした。日本語国際センターは交通のアクセスもよく、駅まで歩いて6、7分ぐらいですし、買い物をするのもとても便利です。近くにイオンモールやブックオフ、TSUTAYAの店舗もあります。

注意：訪日研修の支給内容は変わることもあります。

公募研修プログラム

https://www.jpf.go.jp/j/urawa/trnng_t/project.html



Thuyさんは「スアン日本へ行く」の主人公であるスアンにとても共感するそうですね。

研修で、担当の先生に「ひきだすにほんご」を紹介してもらいました。スアンを自分と重ねると、私も同じことを体験したなと思い、すごく共感することがありました。

第1話で、スアンが初めて日本に渡航しました。スアンはマネージャーの太田さんと料理人の麗さんに空港で迎えてもらいました。スアンは太田さんたちに何を話せばいいかわからなくて、寝たふりをしようと思いました。私も、空港から日本語国際センターまでバスで移動するとき、出迎えてくれた基金のスタッフの方と交流したいと思いましたが、そのときはただ他の皆さんが話しているのを聞くだけでした。うまくやりとりできなかった理由は、日本語で話せないことではなく、自分が持つ日本語の知識を活かすストラテジーを知らなかったことです。もっと早く「ひきだすにほんご」を知っておけばよかったと思いました。

あなたへの ヒント



<https://www.hikidasu.jp/ko.jp/corner/drama/01/>

*「スアン日本へ行く」ドラマは国際交流基金が作成した日本語学習番組「ひきだすにほんご」の一部コンテンツです。